

私たちは誰なのか。

WHO ARE WE

観察と発見の生物学

国立科学博物館収蔵庫コレクション | Vol.01 哺乳類

2021年7月22日[木・祝] —→ 9月12日[日]

開館時間 — 10:00 — 19:00 ※金曜日・土曜日は20:00まで(入場は閉館の30分前まで)

WHO ARE WE

観察と発見の生物学

国立科学博物館収蔵庫コレクション | Vol.01 哺乳類



サバンナの動物に目と鼻の先で向き合い、
数億年前に絶滅した遠い祖先を見つめ、
南半球と北半球の動物をすぐそばで比較する。
距離を、時間を、種をこえる多様な剥製。
展示台の引き出しに収められているのは、
これまでとは違う角度から世界を見るための視点の標本。
開けるたびに増えていく新しい見方、
少しずつ引き出されてくる好奇心。
ふたたび剥製に目を向けると、
それまでとは異なる姿に見えてくる。
気づかなかった不思議に気づき、
わかった気になっていたことが、わからなくなることも。
そして静かに浮かびあがってくる問い。
哺乳類とは、ヒトとは何か。私たちは誰なのか。
剥製を見ていたはずなのに、
いつの間にか世界を見ている。自分を見ている。
それは目の前の出来事と
地球の出来事がつながりはじめるとき。
声なき剥製だから伝えることができる生物学。

かはくの秘蔵がやってくる。

およそ480万点。世界中から集められた無数の標本が保管されている茨城県つくば市の国立科学博物館 自然史標本棟。普段は非公開のコレクションの中から、哺乳類を中心とした貴重で珍しい剥製や資料を選び抜き、特別巡回する展覧会をOPAMで全国初公開。

[写真: ©Gottingham]

[場所] 大分県立美術館3階 コレクション展示室 [観覧料] 一般300円/小・中・高校生200円

※大分県芸術文化友の会 びびKOTOBUKI無料、TAKASAGO無料。/※障がい者手帳等をご提示の方とその付添者(1名)は無料。/※学生の方は入館の際、学生証をご提示ください。/
※「WHO ARE WE 観察と発見の生物学」の会期中に限り、本展の半券提示でコレクション展を無料でご覧いただけます。

関連事業：オンライン講演会「標本工場へようこそ」

[講師] 川田伸一郎(国立科学博物館動物研究部研究主幹)

[日時] 2021年7月31日(土) 15:00~16:30

[募集期間] 7月1日~7月30日

[会場] 大分県立美術館2階 研修室・アトリエ

[参加費] 無料(要事前申込)

[定員] 70名

[申込み] お電話(097-533-4500)またはメール(app@opam.jp)

・作名にイベント名、メール本文にお名前とご連絡先をご記入の上、お申込みください。

・定員に達し次第、締切とさせていただきます。



展覧会情報

〒870-0036 大分市寿町2番1号 大分県立美術館
TEL: 097-533-4500 FAX: 097-533-4567 WEB: <https://www.opam.jp>
アクセス: JR大分駅府内中央口(北口)から徒歩15分/大分ICから車で10分

主催＝公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団・大分県立美術館/特別協力＝独立行政法人国立科学博物館/企画編集・デザイン＝日本デザインセンター 三澤デザイン研究室/後援＝大分県、大分県教育委員会、大分合同新聞社、西日本新聞社、朝日新聞大分総局、毎日新聞社、読売新聞西部本社、NHK大分放送局、OBS大分放送、TOSテレビ大分、OAB大分朝日放送、エフエム大分、J-COM大分ケーブルテレコム/協力＝HIGURE 17-15cas、株式会社ショウエイ、株式会社サンク・アール、一般社団法人路上博物館、Studio Xxingham、株式会社JMC、有限会社尼ヶ崎剥製標本社、株式会社灯工社、日の出工芸株式会社、有限会社フォンテース、株式会社フレームマン、株式会社ワーズウィズ